

2 男女共同参画社会

～男性と女性が家庭、職場、社会などで互いに協力しながら、同等に参画できるまち

<基本計画の目標>

男女が社会のあらゆる分野に同等に参画でき、かつ責任を分かち合う社会の実現をめざします。
 女性に対する相談・自立支援の充実をめざします。
 男女がともに自立し、支え合う地域社会の実現をめざします。
 市民、事業者、行政が連携しながら、男女の多様な生き方の実現をめざします。
 生涯を通じて男女共同参画社会の理解と学習を進めます。

<目標指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H18	H19	H20	H21	H22年度 目標値	H27年度 目標値
審議会等への女性委員の登用率(十)	市に設置された各種審議会の委員総数に占める女性委員の割合	21.4 %	19.5 %	23.0 %	23.2 %	24.3 %	30 %	40 %
固定的性別役割分担意識(一)	固定的性別役割分担意識を肯定する市民の割合	49.8 %	46.8 %	47.7 %	47.2 %	47.2 %	43 %	33 %
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	50.1 %	47.9 %	49.3 %	57.3 %	53.9 %	56 %	66 %

<これまでの取組の評価～進捗と課題>

評価: ◎80%以上の成果、○50%以上の成果、△30%以上の成果、×30%以下の成果

・市民経済部

<昨年度からの課題>

平成19年2月に制定された鎌倉市男女共同参画推進条例の理念は、家庭、地域、職場等、多くの市民に十分理解されているとは言えず、さらに多くの機会を捉えて、継続的に啓発する必要があります。

また、審議会等における女性の登用率を平成22年度までに30%にします。

<進捗>

市民ネットワーク「アンサンブル21」と協働で情報誌の発行、各種セミナー等を開催し、啓発に努めるとともに、関係各課に働きかけた結果、審議会等における女性の登用率は21年度目標値27%に対して28%となりました。

<課題>

社会情勢、経済情勢が急激に変化する中で、条例の理念の周知を推進するため、啓発の方法をさらに工夫し、より多くの人に、より深く浸透させるよう努めます。

担当部の評価



<今後の展開(取組方針)>

・市民経済部

・より多くの人に注目されるよう、時代のニーズを見据えて、啓発の内容を工夫します。

・市民ネットワークによる意識の浸透をさらに深めるため、「アンサンブル21」との協働に努めます。

・審議会等における女性の登用率を高めるよう関係各課に働きかけ、平成22年度目標値30%を目指します。

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・市に設置された各種審議会、委員会等への女性委員の登用率が着実に上昇している。目標に向かい着々とその施策を進行させている点では評価に値する。
- ・市民ネットワークとの協働での機関紙やセミナーの開催は市民を巻き込んだ市民の目線を反映するためにもこのような取り組み方法は評価できる。
- ・アンサンブル21の事業活動には講座「男の料理塾」、講演「女性のための起業家チャレンジ」等があり、男性でも興味を惹かれる。また機関紙「パスポート」の内容も良くできている。



課題・提言

- ・機会が男女平等に与えられればよく、組織を構成する男女比の問題ではない。求められる達成された姿に対して、実現を阻んでいる要因を今一度検討してみる必要があるのではないか。理念上は理解しても、生活感覚として理解できない部分が多いのではないか。
- ・赤ちゃんを産み育てる事への社会的評価が低い為、育児休暇取得が未だに困難な状況である。子育てが親だけでなく親を取り巻く環境までがその一因である事を理解して欲しい。子どもは社会で育てる必要があり、出産育児が尊ばれないなら女性は出産を躊躇する。
- ・男女共同参画施策推進委員会の議事録がWEB上で平成20年度以前のものを閲覧出来ない状況である。透明性の確保し、説明責任を果たすためにも、閲覧出来るよう対処していただきたい。